南阿蘇村 希望の年に

南阿蘇村長 吉良（きら） 清一（せいいち）

新年あけましておめでとうございます。村民の皆さまにおかれましては平成31年の新春を晴れ晴れしい気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は村政に対して格別のご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年は、県道河陰阿蘇線の通行止め解除、県道阿蘇吉田線の開通など交通インフラの復旧や、養護老人ホーム「湯の里荘」の移転完成など復興へ弾みがついた年でありました。

しかし、熊本地震から3年が経過しようとしている中、村が抱えている課題は多岐にわたっており、復旧・復興をさらに加速する必要があります。特に、住まいの状況につきましては、いまだ300世帯余りの方がみなし住宅や仮設住宅で不自由な生活を強いられております。一日でも早く、そして、一人でも多くの方々がこの南阿蘇村で安心して生活できるよう、「南阿蘇村復興むらづくり計画」に基づき、復旧・復興を着実に進めてまいります。

行政改革につきましては、昨年4月に企画観光課を政策企画課と産業観光課に分離し、次世代定住課を新設、人権政策課を総務課に統合し、機能的・効率的な行政運営が図られるよう組織再編を行いました。

また、3つあった第三セクターを統合し、経営の合理化を図りました。今後は、旧久木野庁舎近くにある「そば道場」を、今年春に、「道の駅 あそ望の郷くぎの」の水車小屋近くへ移設し、さらにそばのブランド化を図ります。

庁舎統合に伴う跡地利用につきましては、検討委員会の提言に沿って、地域活性化の観点から白水地区、久木野地区、長陽地区について、バランスのとれた利活用を進めてまいります。

さらには、白水地区の小学校統合を決め、自ら地域に出向きその道筋を付けたところです。

今年は、「住みたい村・住み続けたい村」を実現するために「環境」「活力」「暮らし」を三つの柱とする「きらめきプラン」を掲げ、このプランを実現するために、①地域資源保全継承プロジェクト、②稼げる農業プロジェクト、③観光客V字回復プロジェクト、④子育て世代に選ばれるむらづくりプロジェクト、⑤生涯現役の村づくりプロジェクトと名付けた5つの計画を、一層推進してまいります。

今後とも「住みたい村・住み続けたい村」の実現のため、皆さまと対話の機会を設け、ご意見を伺いながら職員一丸となって村政に取り組んでまいりますので、一層のお力添えをよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、新しい年が皆さま方とふるさと南阿蘇村のさらなる発展の年となりますようお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。